

物流現場 間近に体験



八戸貨物駅でJR貨物の職員（左）から説明を受ける学生ら。3日、八戸市

八戸市 学生向けバスツアー

八戸市は3日、八戸地域の物流関連企業について知ってもらおうと、学生向けのバスツアーを初めて開催した。参加した八戸学院大地経営学部（20）の学生約20人が八戸貨物駅や八戸港コンテナターミナル、倉庫などの現場を間近で見学しながら、物流の現状を学んだ。

物流関係者で構成する八戸地域物流問題懇談会で、地域の学生に八戸市が物流拠点であることを知ってもらいたいとの意見が上がったことなどを受け、特化したツアーを組んだ。物流関係の業種を将来の選択肢としてもらうことも見据える。

このうち同市長苗代の八戸貨物駅では、JR貨物東北支社の職員が貨物取扱量の変化や、トラックから鉄道に長距離輸送を転換する「モーダルシフト」の取り組みを紹介。さらに、到着した貨物列車から荷物が積み下ろされる様子なども見守った。

3年の新松孝介さん（20）は「自分にとって初めての体験で、物流のすごさを感じ取ることができた。こうした仕事で自分たちの生活を支えていることを理解できた」と話した。（藤村大地）